

平成 26 年度 豊岡市域の温室効果ガス排出量について 《平成 29 年 9 月 1 日作成》

市では平成 42 (2030) 年度の市域の温室効果ガス排出量が平成 25 (2013) 年度比で-28.1%とする目標を立て、取組みを進めています。このたび、平成 26 (2014) 年度の市域の温室効果ガス排出量を算定しましたので、お知らせいたします。

1. 市域総排出量

平成 26 年度総排出量は、632 千 t-CO₂ で、平成 25 年度に比べ 41 千 t-CO₂ 減小 (6.1%) しました。(国 : 3.1%減、兵庫県 : 1.8%減) 減少量はガソリン換算で約 18 千 kL に相当し、燃費 10km/L の車が地球から太陽まで片道を走った距離 (約 1 億 2960 万 km) に相当します。※ガソリンの CO₂ 排出係数を 2.32t-CO₂/kL として計算した場合。

2. 部門別増減状況と要因

<状況>

豊岡市部門別 CO₂ 排出量

部門	部門内訳	平成 25 年度 排出量 (千 t-CO ₂)	平成 26 年度 排出量 (千 t-CO ₂)	削減割合 (%)	部門割合 H. 25→H. 26 (%)
産業	製造業、農林水産業、 建築業、鉱業	192	171	▲11.0	28.5→27.1
民生家庭	自動車を除く家庭消費	139	136	▲2.2	20.6→21.5
民生業務	事務所、ビル、ホテル、 サービス業など	155	147	▲5.2	23.1→23.3
運輸	乗用車、バス、鉄道、 飛行機など	166	158	▲4.8	24.6→25.0
廃棄物	廃棄物の埋め立て及び 焼却、下水処理	21	20	▲4.8	3.2→3.2
合計	—	673	632	▲6.1	—

<要因>

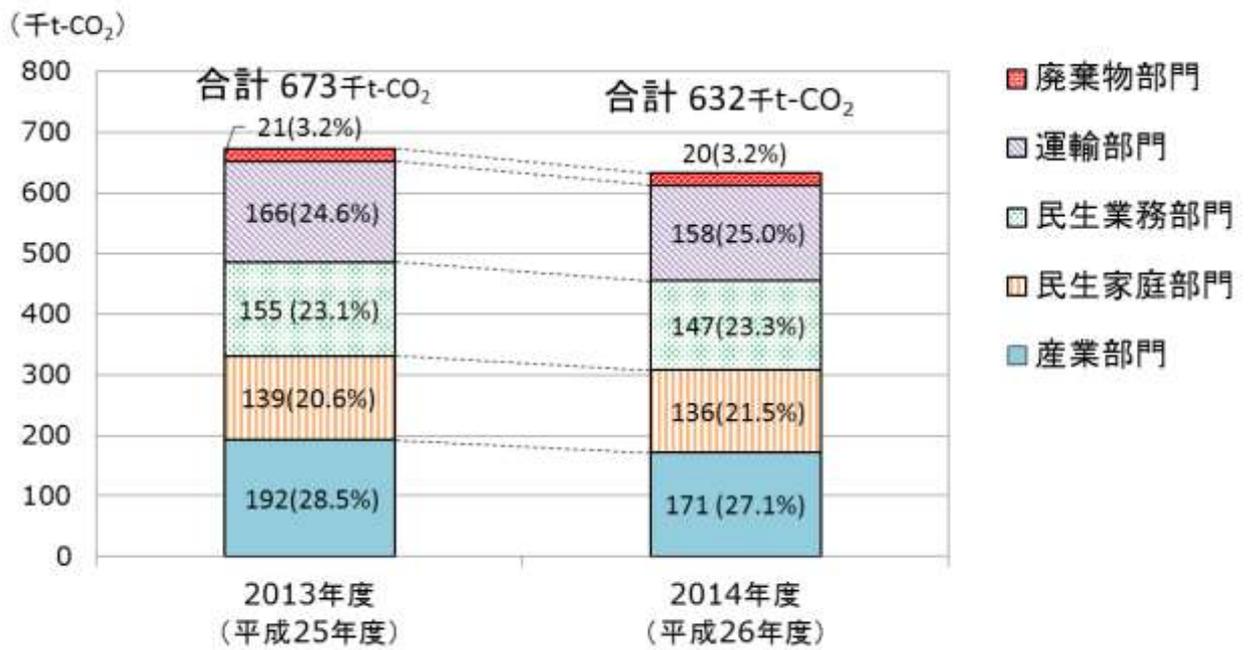
産 業—11.0%減と大幅に下がりました。エネルギー消費量は下がりましたが、市内の製造品出荷額上昇と電力の排出係数 (電気を作るために発生する CO₂ の割合) は上昇していることから、省エネ化が進んだことが要因の一つとして考えられます。

民生家庭—2.2%減と他部門に比べて減少率が低くなりました。世帯数が増加しており核家族化が進んだことが要因の一つとして考えられます。

そ の 他—全国的な減少要因である車の燃費向上や節電の取り組み等と連動していると考えられます。

※ただし、2 年間のデータであるため正確な要因は掴めておりません。今後はデータを積み重ねることで要因分析を進めていきます。全国的な結果や要因分析は下記の環境省 HP をご参照ください。

<http://www.env.go.jp/earth/ondanka/ghg/>



市域温室効果ガス排出量経年変化グラフ

3. 一人当たりの排出量等について

家庭から排出される一人当たりの温室効果ガス排出量とエネルギー消費量は前年度に比べて大きく変わりませんでした。一人当たりの温室効果ガス排出量は25m プール約1.6個分に相当します。



家庭部門における温室効果ガス排出量と消費量の経年変化